

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属)

月本たくや

レポート【第 44 号】

月本たくやレポート編集部

〒215-0024 川崎市麻生区白鳥 2-3-2 K コーポ白鳥 103

TEL : 044-986-6010 FAX : 044-330-1563 Email : mail@tsukimoto.info



令和初、3期目初の定例会報告

～代表質問・一般質問の報告～

✓チーム無所属川崎市議会議員団を代表し、代表質問！



チーム無所属代表質問項目

- ・多摩区内における殺傷事件と登戸土地区画整理事業における安全対策について
- ・新本庁舎超高層棟新築工事の入札不調について
- ・保育の質について
- ・大型連休中の保育について
- ・投票率と若年層の政治参加について
- ・投票環境の改善について
- ・土砂災害特別警戒区域について
- ・議案第 73 号川崎市会計年度任用職員の給与等に関する条例の制定について
- ・議案第 84 号川崎市保育・子育て総合支援センター条例の制定について

✓一般質問①：麻生区のまちづくりの変化に伴う交通課題の対策の早期実現を要求！

麻生区およびその周辺環境は、これから数年で大きく変わる計画が進行しています。来年の夏までに首都高速道路神奈川7号北西線が横浜青葉1Cまでの延伸、これから始まるリニア中央新幹線の東百合丘と片平の非常口新設工事、近々予定されている新百合ヶ丘から麻生警察署方面の道路とつながる稲城市の坂浜平尾線の開通などがあります。

しかしながら、アクセスの向上により、麻生区を通過する車両が増えると同時に、道路整備プログラムで計画を立てた時期に予定されていない事業も始まります。

昨年、横浜市営地下鉄 3 号線の新百合ヶ丘駅までの延伸の事業化が決定し、柿生駅前南地区の再開発準備組合の結成によるまちづくりの検討が始まりました。これは新百合ヶ丘駅周辺地区と柿生駅周辺地区の再編につながるとともに、麻生区内の地下鉄新駅という新しい拠点にも期待が寄せられます。

新しいまちづくりを進める大規模事業が始まる中、区内の道路の混雑が問題になっていて、とりわけ尻手黒川線の開通は、これ以上の混雑にならないように、また、交通安全対策面からも早急な実現が求められます。

これまで以上に、柿生・片平2丁目・片平の3つの交差点を含めた尻手黒川線未開通による混雑が喫緊の課題になっている事情を説明し、早期実現を要求しました。



【川崎市道路整備プログラムに基づき、説明用に作成】

✓一般質問②：高齢者の交通安全対策のきめ細かい対応を提案！

高齢ドライバーの事故発生が増加し、平成 20 年中から 10 年間の推移をみていると、事故の構成比率は 11%から 10 年間で 18.2%に増加しています。加害者にならないために、自動車運転免許の返納の機会の拡充策として、川崎市は「運転時認知障害早期発見チェックリストつき」高齢ドライバーチラシを作成していますが、配布枚数が 1 万枚と限定されているため、交通安全だけでなく、地域や福祉部門などの関係機関を通じた普及啓発の働きかけを提案。

また、被害者として事故になるケースも多く、高齢者向けの交通安全教室を、警察だけでなく、地域レベルで実施できるように地域団体や福祉団体等の関係機関との連携を提案。

私の提案が検討される答弁もあり、高齢者が加害者にも被害者にもならない事故のないまちを目指す第一歩に。

✓一般質問③：多子世帯支援で、未来を拓く提案！

2015 年実施の国立社会保障・人口問題研究所による「第 15 回出生動向基本調査」の結果によると、理想の子ども数 3 人以上の夫婦が 3 人以上を実現できない理由として、経済的理由が 7 割近くを占めています。

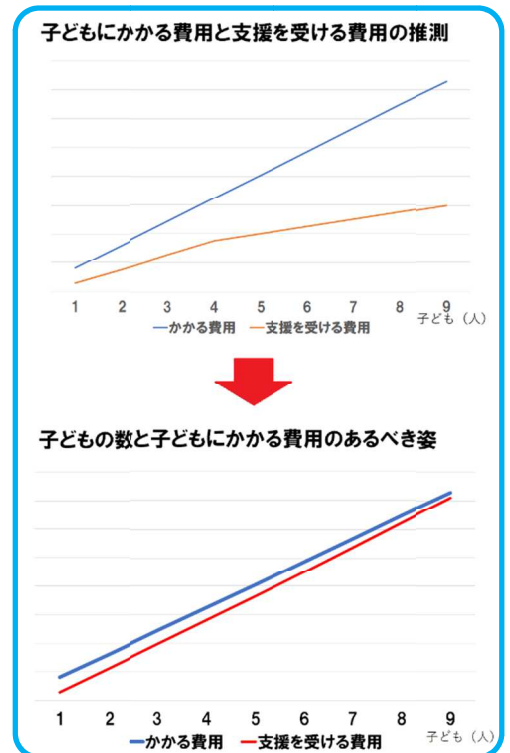
世帯によって支援の内容が異なりますが、児童手当、就学援助、保育料減免等の一部の支援があるものの、右上のグラフのように、子どもの数が多くなればなるほど、家計の負担が膨大になると推測されます。

少子化対策と言われて進められている現在の子育て支援策は、対処療法的で、「社会全体で子どもを育てる」というキャッチフレーズだけが先行し、サービスの対応だけが進められて来ました。

その結果、子育てサービスばかりがクローズアップされ、「社会全体」という観点は、もはや形を為していません。

「子宝に恵まれる自由」を保障し、3人以上の子どもがいる多子世帯が増加することは、社会全体での子育てにつながり、教育や保育の質の向上につながり、未来を拓く可能性を持ちます。

そのためにも、多子世帯対策が進められるべきで、今回の質問により、「多子世帯支援を重要」と認識した市長答弁があり、大きな一歩になりました。



✓一般質問④：ペット防災についての啓発強化を提案。

災害時、ペットは家族として避難を希望する飼い主が多い一方、アレルギーや衛生面での課題から、ペット同行が不可となっている避難所があります。また、このような課題解消のため、熊本県益城町では、ペット専用の避難所を設置した事例もあります。日頃からのペットへのしつけを始め、川崎市が発行している「ペットの飼い主のための防災手帳」を通じた備え、麻生区内で行われたペット同行の防災訓練などを積極的に進め、様々な機会に、ペットの飼い主はもちろんのこと、多くの方々にペット防災を啓発すべきと提案しました。

また、災害時の動物救護について、川崎市獣医師会と川崎市が4月に作成したマニュアルに基づき、今年度から様々な検討が始まるという答弁でしたので、今後のペット防災への理解が広がることを注視していきます。

月本たくやプロフィール

昭和 53 年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市長政務秘書、衆議院議員公設秘書（麻生区・国会担当）等を経て、平成 23 年より川崎市議会議員。

現在 川崎市議会議員（麻生区選出、無所属、当選 3 回、） チーム無所属川崎市議会議員団長 川崎市都市計画審議会委員

川崎市議会役職：議会運営委員会委員、総務委員会委員、大都市税財政制度調査特別委員会委員

神奈川県クッパ協会代表理事 NPO 法人防犯ネットワーク理事・麻生区支部長

川崎市麻生区男子ソフトボール連盟副会長 川崎白百合ライオンズクラブ 2017-2018 年度会長

五力田町内会地区長 麻生区白鳥在住 家族：妻（会社員） 趣味：KUBB（スウェーデン発祥のスポーツ）

月本たくや事務所

麻生区白鳥 2-3-2 K コーポ白鳥 103

TEL 044(986)6010 FAX 044(330)1563

月本たくや

検索

